

'19

後期日程

# 家政小論文

(教育学部)

## 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は1冊(1頁)、解答用紙は1枚、下書用紙は1枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合には申し出てください。
3. 氏名と受験番号は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。





## 問 題

次の文章を読んで、災害時の行動のあり方という視点から、現代にも通じる有効な対策について論じなさい。(600字以内)

### 天声人語

関東大震災を経験した幸田文に『きもの』という自伝的小説がある。激しい揺れと家鳴りがして、ふすまが斜めに裂ける。追真の描写が続く▼主人公の女性  
性は祖母に言われて「仕度」をする。ガス栓を閉め、当座の米も合、梅干し、手ぬぐいを2枚の風呂敷に包み分ける。いつはくれるか知れない、一人を単位にして備えよと祖母が説く。家の扉に筆で避難先と現在時刻を大書して立ち去る▼94年前のきまつ、避難中に家族とはぐれた人は数知れない。屋敷でかまどや七輪から上がった火が四方八方へ広がり、死者不明者は10万人を超えた▼とりわけ被害の深刻だった東京都墨田区にある本所防災館を訪ねた。防災ツアーに参加し、東日本、阪神・淡路など過去の地震から関東大震災を体験した。机の脚にしがみつく。右へ左へ揺さぶられ、止まらなかつたかと思つたまた揺れる。皿に載せられて回っているようだった▼火災時の避難も訓練した。教わつた標語は「おかしも」。周囲の人を「押さない」、慌てて「かけない」、むやみに「しゃべらない」、離れた建物へ「戻らない」。筆者がかつて習つたのは「おかし」だった。「も」はその後の被災の教訓だろう▼さて幸田文にとって、震災当日は19歳の誕生日だった。まったく動転しなかつたとは考えにくい、小説の筆致はあくまで冷静である。非常時の心構えを説いて間然するところがない。この先、どこかで大きな揺れに見舞われたら、「おかしも」と「きもの」で乗り切りたい。2017・9・1

出所：朝日新聞(天声人語)2017年9月1日  
許諾書番号19-1824 朝日新聞社に無断で転載することを禁じる







